

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会
国際プログラム連携分科会（第2回） 議事要旨

日 時 2010年7月12日（月） 16:30-18:00

場 所 日本学術会議5階 5-C(2)会議室

出席者 （委員）竹内邦良（委員長）、小松利光、佐々恭二、寶 馨、是澤 優、
（小委員会委員）石井弓夫、（事務局）田中智之、

議 題 1. 前回分科会議事要旨（案）の確認
2. 当分科会での検討内容について
3. 国際研究プログラムのリストアップとマッピング
4. その他

資 料 資料1 前回議事要旨（案）

資料2 「自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会（参考資料）（佐々委員）

資料3 防災分野の研究開発における重点事項の検討について（寶委員）

資料4 概要図

議事要旨

- 前回分科会議事要旨は了承された。
- 新たに林春男委員、是澤優委員が加わったことが報告され、それぞれ副委員長、幹事に指名された（幹事は他に佐竹建治委員が既に就任済み）。
- 当分科会での検討内容及び国際研究プログラムのリストアップとマッピングについて議論された。主なやりとりは次の通り。
 - 今回の検討は以前のように国土交通大臣の要請などに基づくものか。
→否。自主的なもの。
 - 本分科会が対象とする国際プログラムは研究に関するものが中心か。
→政策や実践を含むべきという意見と、主として研究プログラムという方針は変えなくてもいいのではという意見。
 - 前回の分科会で決めた国際プログラムのマッピングはとりあえず続けるのか？
→否。
 - 誰を相手にするのか
→国民に対して言うことは大事という意見と基本的には日本政府に対してという意見。
 - 実践に結びつかないと言いつ放し。実効あるものを1つでも良いから入れるべき。
 - 例えば、すべての開発行為の計画段階で、災害リスクへの影響評価であるRIA（Risk Impact Assessment）を義務付けること。
 - ISOは重要。特に洪水指令など欧州の規格化に対し、アジアの特性をくみ取るものが必要。
 - 国際研究プログラムは多く、すべてに等しく力はいれられない。日本として力を入れるべきものは選択的にする必要がある。競争的資金は偶然が左右する。
 - 国際機関へのFund in Trustは金を出すだけで、注文を付けない、影響力もない。日本の国際協力活動への国際機関からの評価は資金支出面で具体的に現れているか？
 - 技術協力と能力開発の一体推進が重要。
 - 国内対応が国際対応になる体制。欧米に対抗するには、国内活動を国際から始める工夫が必要。
- 委員長が、本日の議論を基に考えることとなった。

以上